ICM 設定の変更を追跡する dumpcfg 管理ツールの使用

内容

[概要](#)
[前提条件](#)
[要件](#)
[使用するコンポーネント](#)
[表記法](#)
[背景説明](#)
[Config_Message_Logのダンプ](#)
[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、データベース管理のツールである dumpcfg のユーティリティ プログラムを説明します。dumpcfg のツールの主要な機能は、Logger データベースの Config_Message_Log テーブルをダンプし、意味のある形式でテーブルを表示することです。Config_Message_Log テーブルは、IP コンタクト センター（IPCC）エンタープライズ環境の設定変更を記録しています。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Cisco Intelligent Contact Management（ICM）
- Cisco IPCC

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づいています。

- Cisco IPCC Enterprise Edition

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのようなコマンドについても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『シスコ テクニカル ティップスの表記法』を参照してください。

背景説明

ICMシステムは、設定データベースの挿入、削除、および更新を追跡します。この設定履歴は、Config_Message_Logという名前のデータベーステーブルに保持されます。

Config_Message_Logは、設定メッセージを保存するデータベースシステムテーブルです。Config_Message_Logには次の要素が含まれています。

1. **RecoveryKey**:RecoveryKeyは、ICMソフトウェアが仮想時間を追跡するために内部的に使用する値です。このキーは、12桁の設定シーケンス番号に変換できます。この番号は、新しいレコードごとに1つずつ増加します。
2. **LogOperation**:LogOperationは、設定変更のタイプを示します。LogOperationの例としては、「Add」と「Update」があります。
3. **TableName**:TableNameは、構成変更が影響するテーブルの名前を表します。
4. **DateTime**:DateTimeは、一連のメッセージが記録された日時を示します。
5. **ConfigMessage**:ConfigMessageは、トランザクション内のすべての設定メッセージをリストします。

Config_Message_Logのダンプ

Config_Message_Logテーブルはネイティブ状態ではかなり暗号化されています。したがって、Config_Message_Logテーブルを理解するには、データを抽出し、読み取り可能で意味のある形式に変換する必要があります。dumpcfgユーティリティはデータを処理し、次のリストの情報を表示できます。

- 誰が何の操作を実行したか
- いつ変化が起こったか
- 変更を行ったプログラム

Config_Message_Logテーブルの詳細を表示するには、dumpcfgユーティリティプログラムを実行します。設定変更の監査証跡が表示されます。ロガーデータベースに対してdumpcfgユーティリティを実行できます。このユーティリティの構文を次に示します。

```
dumpcfg <database>[@server] <low recovery key> [high recovery key]
```

次の構文を使用します。

- *<database>*は、ロガーデータベースの大文字と小文字を区別する名前を表します（例：lab60_sideA）。
- *@server*は、ICM Admin Workstation(AW)またはロガーのホスト名を表します。**注：対象の**サーバでコマンドを実行する場合は、@serverを「@」文字で置き換えてください。
- *<low recovery key>*と[high recovery key]*は、構成シーケンス番号(*Config_Message_LogテーブルのRecoveryKeyフィールド)を表します。 すべての変更を追跡するために、ICMはこの設定シーケンス番号を増分します(図1のピンクの長方形を参照してください)。

次のコマンドを実行して、これらの変更の完全なダンプを生成します。

```
dumpcfg lab60_sideA@. 0
```

lowRecoveryKeyの値をゼロ(0)に設定し、highRecoveryKeyをドロップします(図1の矢印Aを参照してください)。

図1に、dumpcfgプログラムの部分的な出力を示します。

dumpcfgを実行し、出力を**dumpcfg-output.txt**という名前のASCIIテキストファイルに保存するには、次の構文を使用してコマンドを実行します。

```
dumpcfg lab60_sideA@. 0 > dumpcfg-output.txt
```

図1 - dumpcfgユーティリティと部分的な出力

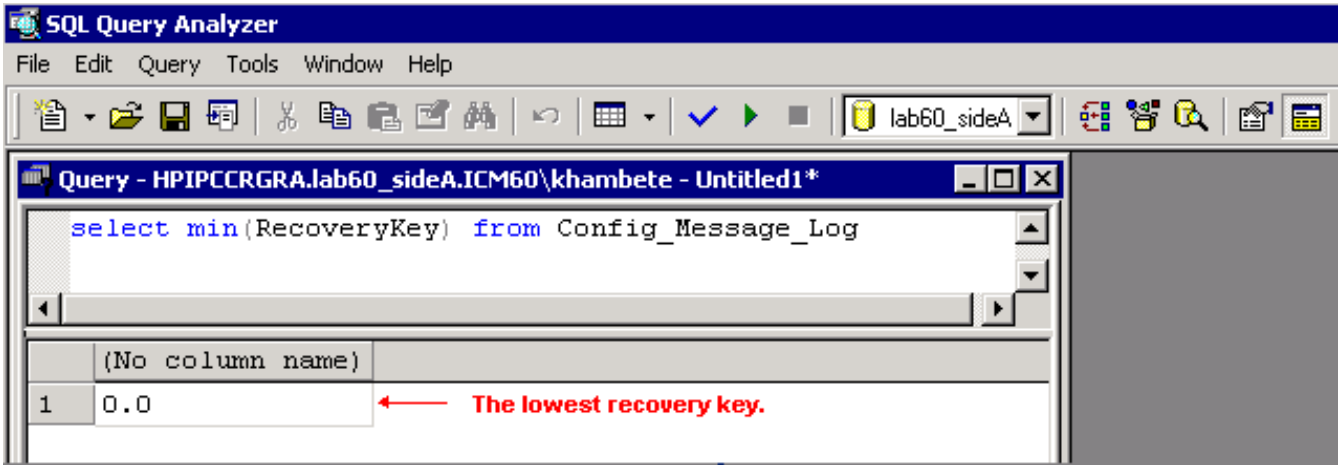
```
C:\>dumpcfg lab60_sideA@. 0          <------ A

[ 411867067000.0, First, Apr 18 2006  5:01PM ]
msgTransactionID: 12188


[ 411867067001.0, Add, Apr 18 2006  5:01PM ]
PID:                 3708
MachineName:         HPIPCCHDS
UserDomain:          ICM60
UserName:            khamb
ProcessName:         conicrList(upcc)
SQLServerUserName:   dbo


[ 411867067002.0, Add, User_Group, Apr 18 2006  5:01PM ]
ObjectAccessLevel:   0
UserGroupID:         5069
CustomerDefinitionID: 0
UserGroupType:       U
ServiceProvider:     Y
ReadOnly:            N
FeatureSetID:        0
ChangeStamp:         0
UserGroupName:       ICM60_test
Description:         test


[ 411867067003.0, Add, User_Group_Member, Apr 18 2006  5:01PM ]
ObjectAccessLevel:   0
UserGroupMemberID:   5069
ChangeStamp:         0
UserGroupName:       ICM60_test
UserName:            ICM60_test


[ 411867067004.0, Last, Apr 18 2006  5:01PM ]
msgTransactionID: 12188


[ 411867067005.0, First, Apr 21 2006  3:39PM ]
msgTransactionID: 12190


[ 411867067006.0, Add, Apr 21 2006  3:39PM ]
PID:                 3572
MachineName:         HPIPCCHDS
UserDomain:          ICM60
UserName:            bphi
ProcessName:         scripted(upcc)
SQLServerUserName:   dbo
```

実際のシーケンス番号は、次のいずれかの方法で設定から判別できます。

- 次のSQLコマンドを実行します。最小のリカバリキーを決定するには、次の手順を実行します。

```
select min(RecoveryKey) from Config_Message_Log
```

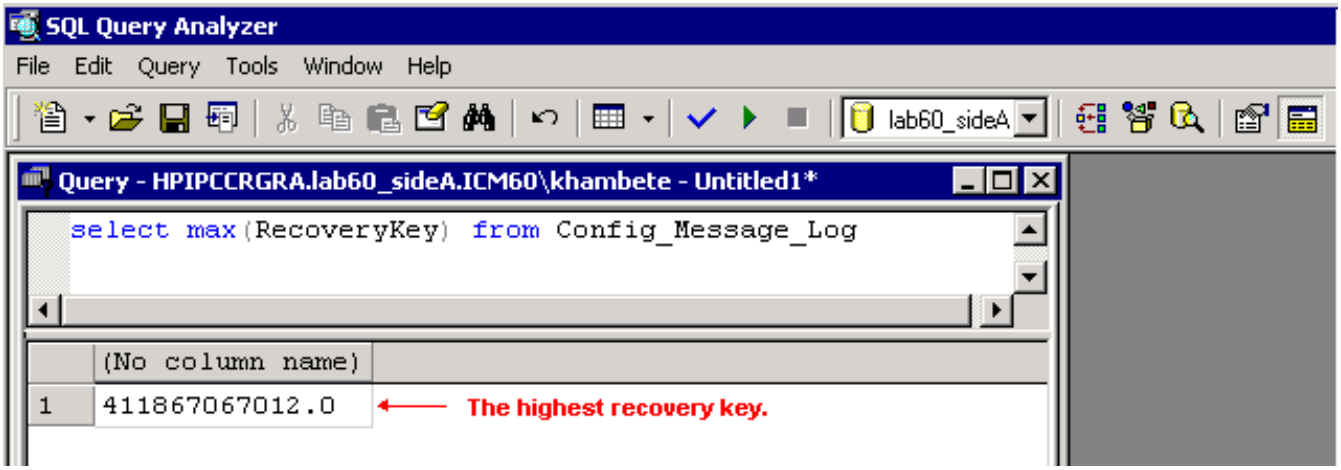
図2 – 最低のリカバリキーのダンプ



最も高いリカバリキーを決定するには、次の手順を実行します。

```
select max(RecoveryKey) from Config_Message_Log
```

図3 – 最高キーのダンプ



特定の日時の前後に発生する変更を取得するために日時を指定するには、次の手順を実行します。

```
select RecoveryKey from Config_Message_Log where
 DateTime >= '4/15/2006 00:00'
```

- ルータまたはロガーのログを確認します。設定またはスクリプトを挿入、更新、または削除するたびに、ルータまたはロガーは新しいシーケンス番号をログに含めます。

```
15:25:35 ra-rtr The config sequence number of 411,969,759,020
 has been broadcast to all distributors.
```

関連情報

- テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems